

2022年7月21日 全8頁

## Indicators Update

# 2022年6月貿易統計

供給制約の緩和により輸出の復調が進む

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

### [要約]

- 2022年6月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+19.4%と16カ月連続で増加した。供給制約の緩和が進む中で円安による輸出数量の押し上げ効果が表れ、輸出の復調が進んでいる。他方、輸入金額は同+46.1%と大幅に増加した。貿易収支は▲1兆3,838億円と11カ月連続の赤字となり、4-6月期の赤字幅（季節調整値）は▲5兆3,777億円と過去最大であった。これを受け、4-6月期の実質GDP成長率における外需寄与度は小幅度なマイナスとなる見込みだ。
- 6月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+2.0%と2カ月連続で増加した。部品調達難の緩和を背景に、自動車輸出の回復が全体を大きく押し上げた。米国向け（同+0.6%）やEU向け（同+5.9%）が増加に転じた一方、アジア向け（同▲1.0%）は前月の大幅増の反動により減少した。中国向け（同+10.5%）は大きく持ち直した。
- 先行きの輸出数量は緩やかな増加基調を辿るとみている。中国経済の正常化が進むことで部品調達難の緩和が進み、引き続き自動車輸出などが持ち直すだろう。また、足元では日本国内で新型コロナウイルスの感染が再拡大する中でも職場への人出の減少幅は小さく、年初のようなボトルネックが生じる可能性は低いとみられる。他方、欧米をはじめとする外需の先行き不透明感は強く、引き続きリスク要因を注視する必要がある。

## 【貿易金額】貿易赤字は継続も輸出は復調が進む

2022年6月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+19.4%と16カ月連続で増加し、コンセンサス(同+17.0%)を上回った(図表1)。季節調整値では前月比+4.0%と9カ月連続で増加した(図表2左)。中国でのロックダウン(都市封鎖)や半導体不足といったボトルネックの解消が進む中で、円安進行(税関長公示レートは130.35円/ドルと前年比19.0%の円安)によって企業の輸出競争力が向上し、輸出数量が増加する効果が表れやすくなったとみられる。輸出の実勢を反映する輸出数量(大和総研による季節調整値)は持ち直しが続いている印象だ。

輸入金額は前年比+46.1%と大幅に増加した。エネルギー価格の高騰や円安による輸入インフレを背景に10兆円を上回った。品目別では、原油及び粗油や石炭、液化天然ガスなどが押し上げた。輸入金額を季節調整値で見ると、前月比+3.6%と6カ月連続で増加した。輸入金額の変動を数量・価格に要因分解すると、輸入数量(大和総研による季節調整値)は同+0.3%と小幅な伸びにとどまった。他方、輸入価格(同)は同+3.3%と10カ月連続で上昇しており、価格要因が輸入金額を押し上げる構図が続いている(図表2右)。

貿易収支は▲1兆3,838億円と11カ月連続の赤字となり、季節調整値では▲1兆9,289億円と、統計を遡れる2012年7月以降で2番目に大きな赤字幅となった(図表3)。四半期で見れば、4-6月期(季節調整値)は▲5兆3,777億円と前期(同、▲2兆8,672億円)から赤字幅が拡大し、過去最大の赤字となった。輸出金額は前期比+5.9%、輸入金額は同+15.1%と、ともに価格要因によって前期から増加ペースが加速している。他方、数量面から見ると輸出数量が同▲0.8%、輸入数量は同▲0.1%といずれも3四半期ぶりに減少に転じた。これを受け、4-6月期の実質GDP成長率における外需寄与度は小幅なマイナスとなる見込みだ。

図表1：貿易統計の概況

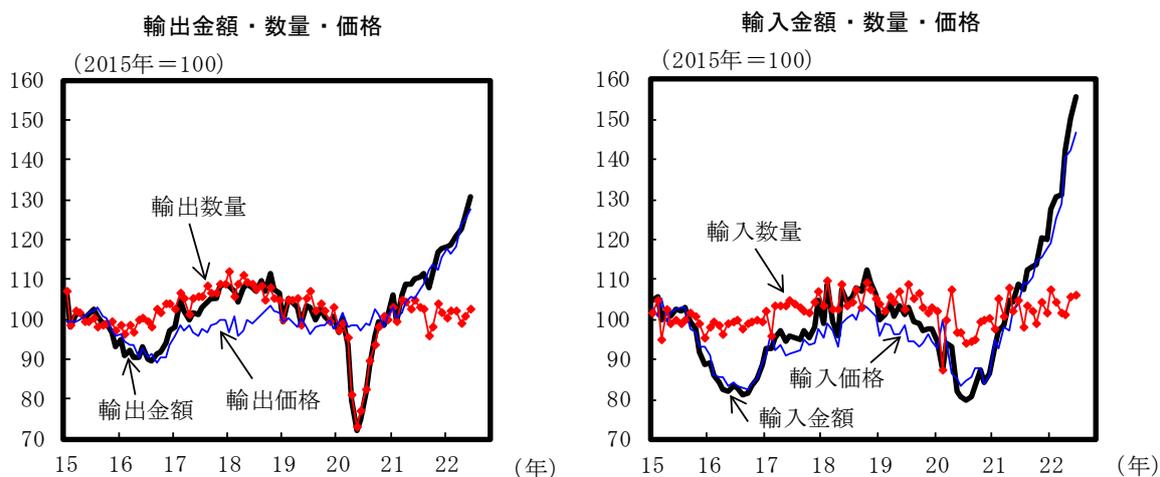
		2021年		2022年						
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
原系列 前年比 %	輸出金額	9.4	20.5	17.5	9.6	19.1	14.7	12.5	15.8	19.4
	コンセンサス									17.0
	DIRエコノミスト予想									17.5
	輸入金額	26.8	43.8	41.2	38.8	34.2	31.4	28.4	48.9	46.1
	輸出数量	▲2.6	4.7	2.0	▲4.0	2.7	▲1.4	▲4.4	▲3.5	▲1.4
	価格	12.3	15.1	15.2	14.1	15.9	16.3	17.7	20.0	21.1
	輸入数量	▲3.0	6.1	1.0	4.8	▲0.9	0.0	▲9.0	4.7	1.3
価格	30.8	35.6	39.8	32.4	35.3	31.4	41.1	42.2	44.2	
	貿易収支(億円)	▲750	▲9,569	▲5,889	▲21,994	▲6,772	▲4,240	▲8,538	▲23,858	▲13,838
季節 調整値 前月比 %	輸出金額	3.4	4.5	0.7	0.6	0.4	1.7	1.6	2.4	4.0
	数量	2.4	5.8	▲2.2	▲1.3	1.6	0.0	▲3.0	1.7	2.0
	価格	1.0	▲1.3	3.0	2.0	▲1.2	1.7	4.8	0.7	2.0
	輸入金額	0.4	5.9	▲0.2	6.3	2.2	0.4	8.6	5.6	3.6
	数量	▲3.2	5.2	▲2.3	5.4	▲3.0	▲2.4	▲0.5	4.4	0.3
	価格	3.8	0.6	2.1	0.9	5.3	2.9	9.1	1.1	3.3
		貿易収支(億円)	▲3,862	▲5,075	▲4,385	▲8,846	▲10,379	▲9,447	▲15,601	▲18,886
	税関長公示レート	111.42	113.95	113.95	114.82	114.84	115.86	122.84	129.17	130.35

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

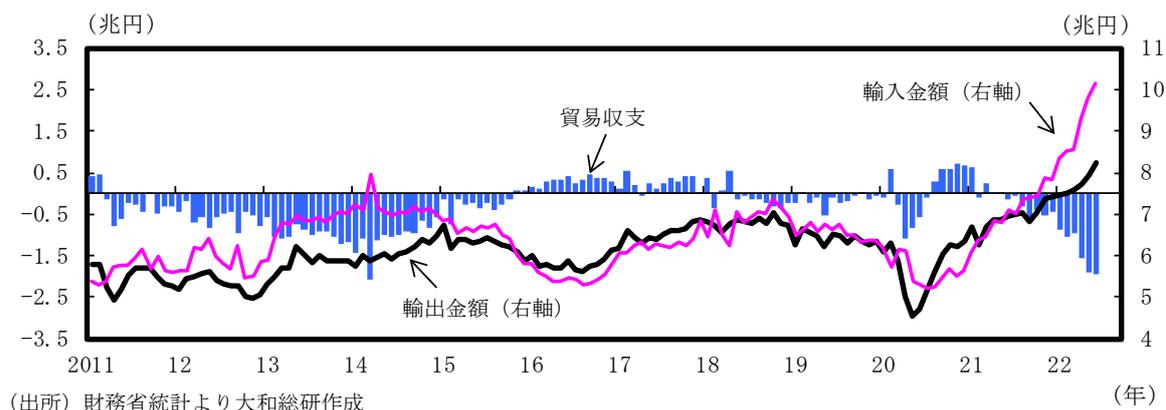
(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表 2 : 輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格 (季節調整値)



図表 3 : 輸出、輸入、貿易収支 (季節調整値)



## 【輸出数量】 部品調達難の緩和が進み自動車輸出が回復

6月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+2.0%と2カ月連続で増加した。部品調達難の緩和を背景に、自動車輸出の回復が全体を大きく押し上げた。ただし、水準で見れば日本や中国で新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する直前の2021年12月を大きく下回っており、依然として回復の余地は大きい。

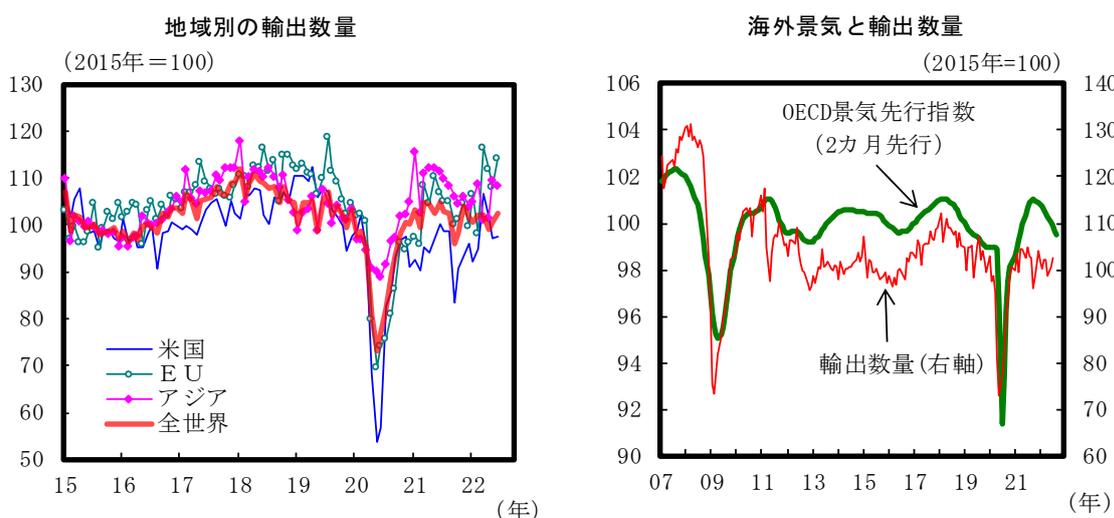
地域別に見ると、米国向け（同+0.6%）やEU向け（同+5.9%）が増加に転じた一方、アジア向け（同▲1.0%）は前月の大幅増の反動により減少した。他方、中国向け（同+10.5%）は4カ月ぶりに増加した。

米国向けは3カ月ぶりに増加した。前月に大幅に減少していた自動車輸出が持ち直した。ただし、水準で見ればなおも低調である。その他の品目では、鉄鋼や電算機類の部分品といった中間財輸出が好調であった。このところ米国の鉱工業生産指数が好調であったことから中間財需要も強かったとみられ、足元では中間財の在庫復元の動きが表れている可能性がある。

EU向けは3カ月ぶりに増加した。自動車に加え、エンジンなどを含む原動機が全体を押し上げた。また、電算機類の部分品やプラスチックなどの中間財も持ち直している。他方、3月から5月にかけて高水準にあった半導体等製造装置は落ち着きを取り戻しつつある。5月の機械受注統計では半導体製造装置とみられる機種で外需からの大型受注があり、一時的に輸出数量を押し上げる要因となっていた可能性がある<sup>1</sup>。

アジア向けは3カ月ぶりに減少した。プラスチックや鉄鋼など前月に大幅に増加した品目の反動減が主因であり、増加基調が一服したわけではないとみられる。他方、このところ大きな動きが見られなかった半導体等製造装置では中国向けが大幅に増加した。上海市などでのロックダウン解除を背景に、経済活動の再開を見越した設備投資が追い風になったとみられる。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注1) OECD景気先行指数 (CLI) はOECD加盟国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

<sup>1</sup> 詳細は拙稿「[2022年5月機械受注](#)」（大和総研レポート、2022年7月11日）を参照。

## 【見通し】輸出数量は経済正常化の進む中国向けがけん引役に

先行きの輸出数量は緩やかな増加基調を辿るとみている。中国経済の正常化が進むことで部品調達難が緩和され、このところ低調であった自動車輸出などが持ち直すだろう。また、日本国内では新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最高を更新しているが、Google 社が公表するデータ<sup>2</sup>によれば、足元の職場への人出は「第 6 波」が発生した年初ほどには減少していない。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの行動制限は当面発出・適用されない見込みであることに鑑みれば、第 6 波時のように工場への出勤停止などを背景としたボトルネックが生じる可能性は低いとみられる。

他方、米国では財消費が鈍化し、欧州ではウクライナ危機に関連してエネルギー供給不安がくすぶっている。金融引締めなども相俟って欧米の景気後退懸念が強まる中、外需の先行き不透明感は強いと言えよう。日本の輸出の頼みの綱である中国においても感染再拡大が警戒されており、引き続きリスク要因を注視する必要がある。

輸出の先行きを地域別に見ると、米国向けは徐々に増勢が弱まるとみている。米国の 6 月のコア小売売上高（除く自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービス）は前月比+0.8%と増加に転じ、足元の個人消費の底堅さを示した。他方、7 月のミシガン大消費者センチメントは 51.1 と、統計開始以来の低水準となった 6 月からは幾分上昇しつつも、なお歴史的な低水準にある。高インフレなどによる消費マインドの悪化や、個人消費の内訳が財からサービスに移りつつあることに鑑みれば、日本からの消費財輸出は鈍化する可能性が高い。また、企業の設備投資意欲の強さが資本財輸出を呼び込むとみられるものの、FRB による利上げや景気後退懸念を背景に徐々に勢いを失うだろう。

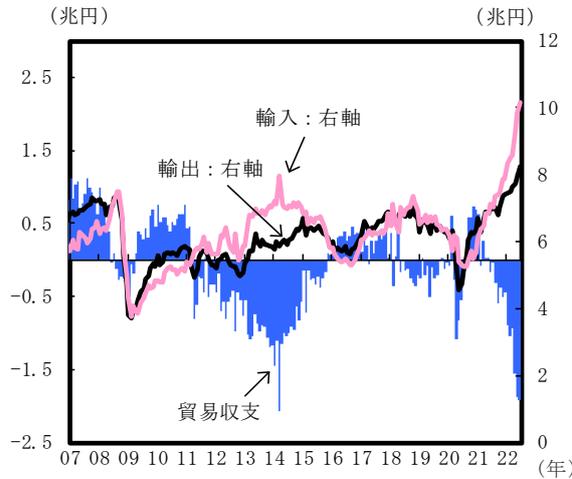
欧州向けは足踏みするとみている。欧州では 6 月のユーロ圏の HICP 上昇率が前年比+8.6%と過去最高を更新し、高インフレが個人消費を抑制している。また、資源高やウクライナ危機による先行き不透明感が企業活動を鈍らせており、設備投資の手控えが日本からの資本財輸出の減少要因となろう。とりわけ足元では、ロシアによるエネルギー供給を巡り緊張が高まっている。ドイツ向け天然ガスパイプライン「ノルドストリーム 1」の停止による経済活動への影響などが懸念されており、引き続きの注視を要するだろう。

中国向けは回復が加速するとみている。6 月に上海市や北京市などでロックダウン（都市封鎖）が解除され、中国国内では経済活動の正常化が進んでいる。2022 年秋の開催が目される 5 年に 1 度の共産党大会に向け、インフラ投資や自動車購入の後押しといった経済対策も内需を下支えするだろう。他方、6 月の中国の輸入金額（ドル建て）は前年比+1.0%にとどまった。内需の回復には時間がかかっており、日本からの消費財輸出は遅れて回復することが予想される。また、引き続き「ゼロコロナ政策」の徹底によって散發的なロックダウンが実施されるリスクには注意が必要だ。

<sup>2</sup> <https://www.google.com/covid19/mobility/>

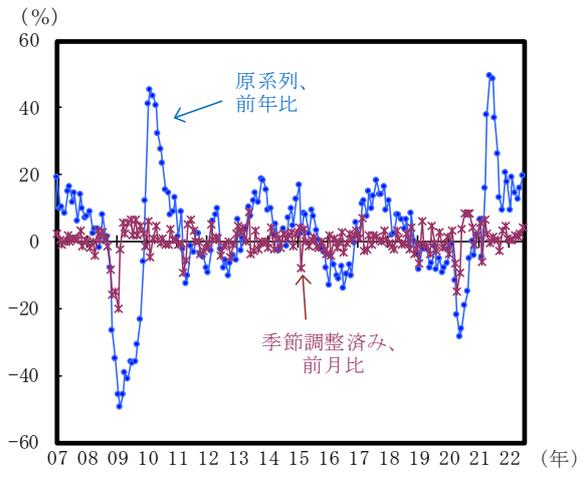
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

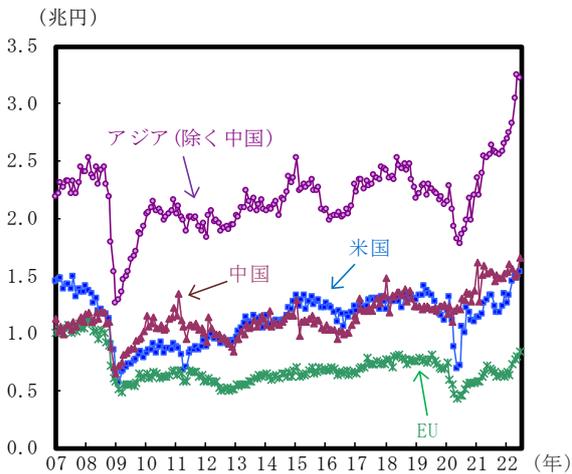


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

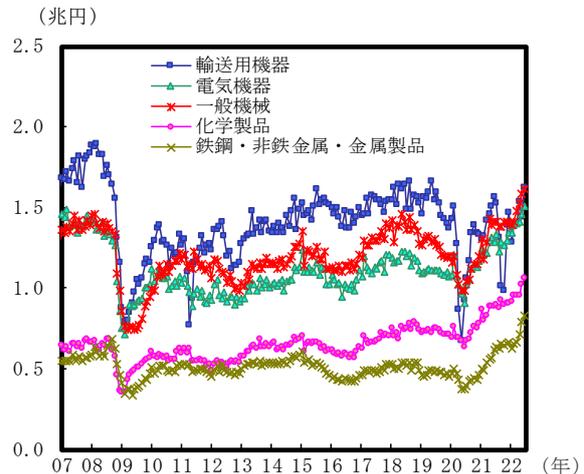


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)



(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

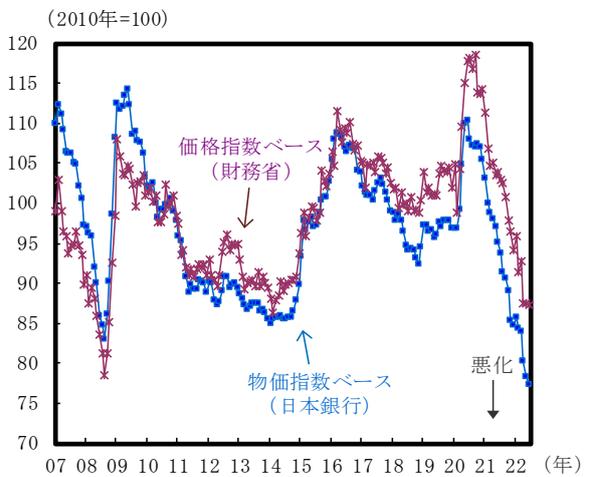


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05	2022/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	9.6	19.1	14.7	12.5	15.8	19.4	100.0	19.4
食料品	2.2	18.3	6.3	14.0	18.2	25.8	1.2	0.3
原料品	▲0.6	13.6	5.2	4.0	20.9	9.0	1.7	0.2
鉱物性燃料	111.2	139.3	90.5	132.0	404.8	341.5	2.5	2.3
化学製品	5.8	19.8	15.7	8.5	15.5	19.6	12.3	2.4
原料別製品	20.0	31.1	21.4	24.3	35.0	32.6	13.3	3.9
鉄鋼	47.0	45.5	38.8	37.1	60.2	44.2	5.6	2.0
非鉄金属	18.0	32.5	8.5	26.5	30.4	30.7	2.7	0.8
金属製品	▲8.3	13.7	8.7	7.9	4.4	17.6	1.5	0.3
一般機械	7.1	19.7	15.8	6.6	13.3	14.3	18.9	2.8
電気機器	8.4	16.0	15.6	8.7	11.1	17.1	17.4	3.0
半導体等電子部品	14.0	21.4	16.0	9.6	21.1	29.6	6.0	1.6
I C	15.0	23.4	16.4	8.7	25.8	41.2	4.2	1.5
映像機器	91.7	77.4	85.4	69.0	58.8			
映像記録・再生機器	8.9	1.3	▲0.9	▲3.7	▲0.5	63.1	0.4	0.2
音響・映像機器の部分品	▲9.3	8.7	13.0	▲21.6	7.7	▲16.9	0.2	▲0.0
電気回路等の機器	1.4	11.8	10.5	7.9	4.3	10.2	2.3	0.3
輸送用機器	▲0.5	4.3	▲1.2	4.9	▲5.3	3.4	18.0	0.7
自動車	▲1.0	8.3	▲5.2	4.8	▲7.9	0.4	12.1	0.1
自動車の部分品	3.6	3.2	11.8	2.9	0.5	1.8	3.6	0.1
その他	18.2	27.8	27.1	25.7	19.5	27.6	14.8	3.8
科学光学機器	▲2.4	6.2	0.5	5.7	▲2.4	12.2	2.6	0.3

米国向け輸出金額 内訳								
	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05	2022/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	11.5	16.0	23.8	17.5	13.6	15.7	100.0	15.7
食料品	19.7	27.1	63.2	39.1	31.6	34.9	1.2	0.3
原料品	▲16.2	▲39.3	3.4	18.3	77.3	26.8	0.9	0.2
鉱物性燃料	559.9	2709.1	1007.5	228.7	1455.2	659.8	1.7	1.7
化学製品	25.4	12.0	67.1	20.5	49.4	58.0	9.4	4.0
原料別製品	8.8	18.8	39.9	43.3	37.5	45.4	8.1	2.9
鉄鋼	38.1	19.1	91.8	87.0	24.4	128.1	2.4	1.5
非鉄金属	45.6	47.9	21.8	57.3	78.3	61.5	1.0	0.4
金属製品	▲24.8	6.6	22.9	12.4	6.7	1.0	1.4	0.0
一般機械	29.2	27.1	37.2	23.3	26.1	19.6	25.8	4.9
電気機器	12.3	10.9	25.9	8.7	1.2	8.6	13.5	1.2
半導体等電子部品	17.5	31.2	3.4	19.0	12.5	2.9	1.4	0.0
I C	14.9	42.5	▲4.6	10.9	25.8	20.2	0.6	0.1
映像機器	19.1	15.9	23.6	▲11.3	▲23.3			
映像記録・再生機器	16.1	▲0.7	21.9	▲14.0	▲19.0	39.3	0.7	0.2
音響・映像機器の部分品	▲32.2	8.3	31.4	▲62.2	▲1.6	5.0	0.1	0.0
電気回路等の機器	▲2.8	▲7.0	2.1	4.0	▲3.1	11.9	1.4	0.2
輸送用機器	▲2.3	10.1	▲5.4	9.3	▲13.8	0.3	28.5	0.1
自動車	▲0.2	16.2	▲16.7	10.9	▲15.6	▲0.7	21.5	▲0.2
自動車の部分品	▲1.2	▲1.4	41.7	5.7	1.0	8.4	5.7	0.5
その他	9.9	14.0	40.5	17.6	5.4	2.1	10.9	0.3
科学光学機器	19.3	16.1	20.3	31.6	17.0	16.5	2.6	0.4

EU向け輸出金額 内訳								
	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05	2022/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	16.1	8.8	16.8	19.2	10.5	22.1	100.0	22.1
食料品	49.9	4.8	46.2	32.0	18.2	27.9	0.6	0.2
原料品	31.5	28.6	22.1	24.4	5.0	27.3	0.9	0.2
鉱物性燃料	0.2	32.7	170.2	344.9	229.3	65.2	0.1	0.1
化学製品	11.5	6.1	23.8	15.1	7.2	18.3	13.0	2.4
原料別製品	43.9	39.6	34.1	44.6	61.5	44.4	9.4	3.5
鉄鋼	203.8	176.9	66.5	188.9	196.3	116.1	3.4	2.3
非鉄金属	93.2	9.0	17.2	23.4	37.2	30.3	1.0	0.3
金属製品	▲15.5	3.8	14.4	10.4	2.6	▲0.8	1.4	▲0.0
一般機械	16.6	21.7	31.7	33.8	18.4	11.4	22.3	2.8
電気機器	11.8	2.8	6.2	7.5	4.8	15.2	17.0	2.7
半導体等電子部品	15.0	14.1	14.5	15.2	20.3	22.7	2.3	0.5
I C	10.1	31.4	21.8	12.8	33.2	34.4	1.0	0.3
映像機器	11.5	12.4	▲6.0	11.1	32.6			
映像記録・再生機器	1.5	9.3	▲24.3	▲12.1	40.5	122.9	1.1	0.7
音響・映像機器の部分品	7.4	▲10.1	11.5	▲21.8	▲6.6	▲23.0	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	16.7	23.2	15.3	11.2	8.9	7.8	1.6	0.1
輸送用機器	▲6.5	▲17.5	▲1.0	▲1.2	▲10.3	21.0	20.5	4.3
自動車	▲12.4	▲24.0	▲19.0	▲0.9	▲7.0	34.0	13.2	4.1
自動車の部分品	▲9.4	▲13.1	▲3.0	▲4.5	1.9	▲7.9	4.3	▲0.4
その他	49.8	28.4	19.9	31.0	9.5	41.5	16.2	5.8
科学光学機器	40.3	25.7	36.9	43.5	21.3	46.0	4.6	1.8

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05	2022/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	6.3	25.2	12.4	10.3	17.5	19.1	100.0	19.1
食料品	▲4.6	17.7	▲4.5	10.1	17.7	24.1	1.4	0.3
原料品	▲0.6	19.9	3.8	1.7	16.7	7.4	2.5	0.2
鉱物性燃料	49.9	89.8	64.4	86.3	224.0	158.6	1.9	1.4
化学製品	0.6	23.7	9.3	4.4	11.8	13.0	14.8	2.0
原料別製品	17.5	34.8	16.3	21.5	34.9	30.7	15.9	4.5
鉄鋼	39.2	45.8	34.3	28.2	59.6	35.9	6.8	2.1
非鉄金属	15.8	37.8	2.7	28.3	30.9	33.8	4.1	1.2
金属製品	▲3.4	17.6	5.1	6.2	3.4	29.5	1.7	0.5
一般機械	▲4.7	18.1	6.4	▲4.8	5.1	11.4	17.6	2.1
電気機器	7.2	19.8	15.7	9.9	14.3	19.4	21.8	4.2
半導体等電子部品	13.7	21.2	16.5	8.5	21.4	31.0	9.5	2.7
I C	15.1	22.6	16.9	8.1	25.7	41.8	7.0	2.5
映像機器	224.1	219.6	221.2	235.8	171.6			
映像記録・再生機器	8.1	1.2	0.1	10.8	▲1.4	60.1	0.3	0.1
音響・映像機器の部分品	▲12.5	0.6	▲3.0	▲16.7	▲1.4	▲20.7	0.2	▲0.1
電気回路等の機器	1.0	13.4	10.5	9.8	4.9	10.0	3.1	0.3
輸送用機器	1.4	17.7	1.3	7.5	▲6.7	▲5.0	7.1	▲0.4
自動車	▲5.0	13.7	0.8	▲5.2	▲14.2	▲17.7	3.7	▲0.9
自動車の部分品	9.7	11.7	7.6	14.3	3.4	6.0	2.6	0.2
その他	14.6	34.9	19.9	25.3	27.7	31.3	17.1	4.8
科学光学機器	▲15.9	▲0.6	▲12.5	▲8.4	▲12.9	3.8	2.7	0.1

中国向け輸出金額 内訳								
	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05	2022/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲5.4	25.8	2.9	▲5.9	▲0.2	8.3	100.0	8.3
食料品	3.6	42.5	20.9	24.1	28.7	23.2	1.2	0.2
原料品	7.1	67.9	▲5.1	▲4.2	16.5	17.8	2.7	0.4
鉱物性燃料	▲51.4	▲25.1	2.2	100.2	23.8	180.4	1.4	1.0
化学製品	▲9.5	40.9	4.3	▲1.1	10.1	10.4	16.4	1.7
原料別製品	▲3.0	39.0	4.3	4.7	19.0	19.1	13.1	2.3
鉄鋼	3.8	58.7	26.1	▲0.3	21.0	4.2	3.4	0.1
非鉄金属	▲2.6	30.6	▲19.4	12.3	24.1	23.2	4.1	0.8
金属製品	▲5.6	16.6	4.3	▲1.7	5.7	54.3	2.3	0.9
一般機械	▲11.1	20.2	▲4.6	▲25.7	▲10.4	1.1	21.4	0.3
電気機器	7.0	27.4	16.7	7.9	3.6	15.2	22.3	3.2
半導体等電子部品	18.0	24.4	10.5	▲1.0	4.1	37.8	7.9	2.4
I C	24.1	27.0	5.1	▲4.6	2.4	51.2	5.7	2.1
映像機器	269.7	320.2	301.9	301.9	223.7			
映像記録・再生機器	▲0.9	▲16.3	▲12.8	▲14.4	▲11.9	51.1	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲29.6	▲6.6	▲11.5	▲28.7	▲37.1	▲49.3	0.2	▲0.2
電気回路等の機器	▲1.0	24.5	15.0	11.0	▲4.4	6.9	3.5	0.2
輸送用機器	▲3.5	6.6	▲7.0	▲10.0	▲26.3	▲22.8	7.5	▲2.4
自動車	▲9.0	7.8	▲8.4	▲12.2	▲36.3	▲23.2	4.7	▲1.5
自動車の部分品	6.8	3.1	▲5.5	▲4.4	▲12.4	▲21.1	2.7	▲0.8
その他	▲12.8	13.3	0.4	▲8.4	▲7.2	12.3	14.0	1.7
科学光学機器	▲25.5	▲1.1	▲15.4	▲22.3	▲22.9	▲12.5	3.2	▲0.5

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成